

関西電力管内における平成27年度夏の電力需給見通し等について（概要）

平成27年4月23日
関西広域連合エネルギー検討会

関西電力管内における平成27年度夏の電力需給について関西電力では、需要においては節電効果等による需要の減少を、供給においては火力発電所の設備更新や定期点検の延期等による自社供給力の最大限の確保とともに他電力会社からの融通などを見込んでいる。これにより、最低限必要とされる予備率3%は確保できる見込みである。

他電力会社からの融通について中西日本の状況を見ると、電力需給は昨年度停止していた火力発電所の運転再開などにより昨夏よりも改善しているものの、火力発電が高稼働となるなか、計画外停止の総数は全国的に増加傾向にある。

このようなことから、需給がひっ迫しないよう、安心して安定した電力需給に向けて、節電の着実な実施、発電所のトラブル対策の推進、万一の需給ひっ迫を想定した供給力の追加や需要の抑制、連絡体制の整備等の取組が重要である。

1 電力需給の見通し

- 国の検証では、関西電力管内のピーク時の需要について、平成22年度夏の需要実績から節電影響▲310万kWの他、離脱影響、経済影響、気温影響を見込んで、2,791万kW（昨夏の検証時の想定2,873万kWから82万kW減少、昨夏の実績2,667万kW）とした。
- これに対する供給力として、関西電力は火力発電所の設備更新や定期点検の延期で自社供給力を最大限確保することなどにより、供給力を2,875万kWとし、予備率3%が確保されている。

資料1 関西電力管内における夏の電力需給見通し

（単位：万kW）

	需要	供給力	(内訳)							供給 予備力
			原子力	火力	水力	揚水	新エネ	他社	融通等	
今夏	2,791	2,875	0	1,682	212	368	0.3	570	43	84 (3.0%)
昨夏	2,873	2,960	0	1,633	209	414	0.3	537	167	87 (3.0%)
差	▲82	▲85	±0	+49	+3	▲46	±0	+33	▲124	▲3

出典：第10回電力需給検証小委員会 資料

- 中西日本6社の状況を見ると、昨年度に停止していた火力発電所の運転再開などにより、予備率は4.9%（昨夏の3.4%から1.5%改善）と改善している。

2 トラブルリスク

- 震災以降、全国的に原子力発電所が停止している中で、多くの火力発電所において定期点検の時期が延期され稼働率が増加しており、計画外停止の件数は増加傾向にある。
- 関西電力は、計画外停止を未然に防止するため、巡回点検や監視の強化などにより異常を早期に発見し、需給が安定している期間に計画的に補修を行っている。
- また、計画外停止の発生に備えて、必要資材の確保や補修作業体制の確保などを行っている。

3 電力需給対策

(1) 節電取組の推進

- 今夏においても、電力需給のひっ迫を避け、必要最低限の予備力を確保するためには、一定の節電が前提となっていることから、国や関西電力とも連携し、府県民や事業者に対して昨夏同様の節電の着実な実施をさらに幅広く呼びかけていく。

(2) 関西電力への要請

- トラブルリスクの低減及びトラブル発生時の迅速な対応のため、日常からの巡回点検の強化等により、計画外停止のリスク管理に万全を期すとともに、トラブルが発生した際にも迅速に対応できる体制を整えること
- 需給がひっ迫すると想定される場合には、卸電力取引所からの調達や他電力会社からの応援融通などにより供給力を確保するとともに、瞬時調整特約の発動やネガワット取引の実施により需要を抑制するなど、できる限りの対策を的確に講じること